

『EGFR-TKIs(上皮成長因子受容体チロシンキナーゼ阻害剤: イレッサ、タルセバ)の治療効果に対する転移臓器の影響の検討』
に關係する患者様, ご家族の皆様方へ

当院では、『EGFR-TKIs の治療効果に対する転移臓器の影響の検討』という調査と研究を行っています。EGFR-TKI で治療された肺癌患者様の経過について調査いたします。

＜調査の対象となる患者さま＞

2009 年から 2014 年までの間に当院で EGFR(上皮成長因子受容体)遺伝子変異陽性と診断された患者の中で、IIIB 期、IV 期の非小細胞肺癌で一次治療としてゲフィチニブ(イレッサ)又はエルロチニブ(タルセバ)を使用された 178 名を対象といたします。

＜目的＞

イレッサ、タルセバによる一次治療を受けた患者の、治療開始前の転移臓器、無増悪生存期間、全生存期間及び奏効率を後方視的にに検討することです。

＜調査方法＞

患者様のカルテの記録を調査いたします。

＜患者さまのプライバシーに関して＞

プライバシー・個人情報は厳重に守られます。お名前, 生年月日など患者さまを特定できる情報が外に出ることは決してありません。

＜研究参加に関して＞

この研究への参加に同意いただけない場合は以下の連絡先にお申し出ください。研究対象から除外させていただきます。また、研究終了後にご連絡いただきました場合には研究対象から除外することができませんので、ご容赦いただきますようお願い致します。

ご不明な点がございましたら、以下に示す本調査の研究代表者までお問い合わせ下さい。

〒591-8555 大阪府堺市北区長曾根町 1180

国立病院機構近畿中央胸部疾患センター

腫瘍内科 安宅 信二

腫瘍内科 谷口 善彦

TEL: 072-252-3021, FAX: 072-251-1372

なおこの調査は病院外の専門家の方を含んだ近畿中央胸部疾患センター臨床試験審査委員会における厳重な審査と承認をうけて実施しています。

(当院ホームページに掲載)